

「また、御子はそのからだである教会のかしらです。御子は初めてあり、死者の中から最初に生まれた方です。こうして、すべてのことにおいて第一の者となりました」：18。

I 教会は御子キリストのからだ。

1. 一つの民族全体が一人の人物によって代表される共同体的人格性のヘブル的思考を背景とする。たとえば、人類全体は、自然的生命を通じてアダムの生命にあずかるゆえに、アダムによって代表されている。このアダムが罪を犯し滅びに向う人類を救うために、御子が、最後のアダムとしてこの世に来られ、人類の罪のために十字架で死に、復活された。「最後のアダム（キリスト）は、生かす御霊となりました…第一の人（アダム）は地から出て、土で造られた者ですが、第二の人（キリスト）は天から出た者です」（I コリント 15 : 45、47）。このキリストの十字架・復活・御霊の注ぎによる霊的創造（新生）によって、キリストのいのちにあずかる者として召し出された神の国の相続者全体（私たちを含む）、すなわち教会は、キリストに属するものとして、キリストによって代表される。

2. 旧約時代には、神は幕屋、神殿を用意され、そこに住まれ、民は聖なるいけにえを通して神に近づき神を礼拝し、神に祈り交わることができた。新約時代は、一つの場所に限定される幕屋、神殿ではなく、神は、キリストのからだ（教会）を地上に置かれた。神は、キリストのからだに属する私たち一人一人の心とキリストのからだである教会に住まれ臨在し私たちの礼拝を受け、私たちと交わりをされる。神は初めから、一人一人の救いだけではなく、全体としての民、新しい共同体（教会）の樹立にも意を用いて来られた（エペソ 3 : 4~6、9~11）。

3. 教会（私たち）がキリストのからだであるとは、キリストとのつながりとお互いのつながりの支えとの両方を必要としている。

①キリストとのつながりの大切さ。みことばを味わう、信仰、隠している罪を正直に告白し悔改め、祈り、静まりを通して、絶えずキリストとのつながり、キリストの身近にいることを大切にしたい。その主との恵みの交わり、救いの感謝から遣わされて福音を宣べ伝える者とされたい。順序に注目！→「イエスは十二弟子を任命された。それは、i 彼らを身近に置き、ii また彼らを遣わして福音を宣べさせ」（マルコ 3 : 14）。詩篇 73 : 28 の順序も同じ＝「i 神のみそばにすることが 幸せです。… ii あなたのすべてのみわざを語り上げましょう」。

②キリストのからだであるお互いのつながりの大切さ。「大勢いる私たちも、キリストにあって一つのからだであり、一人ひとり互いに器官なのです」（ローマ 12 : 5）。主が集められた私たちお互いは、お互いを必要とするからだの器官。「器官は多くありますが、からだは一つなのです。そこで、目が手に向って、『私はあなたを必要としない。』とすることはできないし、頭が手に向って、『私はあなたを必要としない。』とすることもできません。それどころか、からだの中で比較的弱いと見られている器官が、かえってなくてはならないものなのです」（I コリント 12 : 19~22）。※神が造られた体の支え合い。「驚くべき人間の体。神のかたちとして」の本、参照。教会は、人間が好みや人間的な必要の度合いで集めたメンバーではない。神ご自身が選ばれ、神が喜んで招かれた人々の集まり。神が集められたお互いの違い（それぞれ違い、個性がある）を認め合い受け入れる（争いではなく、違っている者が協力し合う愛）ことを学んでいく教会。主の教会は、一人一人が孤立することによってではなく、共に集い交わることによって整えられ、建て上げられる。主が、十二弟子をバラバラにではなく、あえて違って

いる十二人（全国運営委員も違いのある 12 名。聞く事と語る事のバランスのあるメンバー。人格と意見を分けての話し合いの恵み）選ばれ、彼らを共同の交わりの生活（ある時にはぶつかることも通らせながら）を通して訓練されたように。

## II 「御子は教会のかしら」。

キリストは御自身のからだである教会のかしらとして、教会というからだ（このからだの各器官が私たち）を指導する頭脳であるとともに、教会を統治支配する意志でもある。教会の一つ一つは、キリストに指導され統治される。教会のかしら、恵みとまことにより支配されるキリスト、それゆえに→

1. 教会のかしらはキリストのみ。人が教会のかしら、支配者になってはならない。また教会は人に支配されてはならない。人がかしら、支配者になるとは、主に祈り聞かず、自分の意見を曲げず、人の意見に耳を傾けないこと。「彼らの中でかしらになりたがっているディオテレペスが、私たちの言うことを聞き入れません。ですから、私が行ったなら、彼のしている行為を指摘するつもりです。彼は意地悪なことばで私たちをののしっています。それでも満足せず、兄弟たちを受け入れないばかりか、受け入れたいと思う人たちの邪魔をし、教会から追い出しています」第Ⅲヨハネ9、10。教会のかしらであるキリストを押しつけて、かしらになりたがる人の特徴は、自分の権威、支配を確立しようとすることです。自分を常に第一にしようとし、キリストを第一、健全な唯一の支配者とするに反抗する明確な高慢な罪を持っています。いつも自分が絶対に正しいと思い込み、人の意見に耳を傾けず、自分の思い通りにしようとする。意地悪な言葉で人をののしり、人々を受け入れない。主の教会に受け入れるべき人たちの邪魔をし、主が招かれた人々を教会から追い出す。※多くの教会で事実としてある。教会は聖書が語ってない事的人間的なこだわりで分裂する。教会のある人だけが祈って、主に「こう示された」と事ごとに主の名を語り、皆をキリストの名を乱用して従わせることは健全ではない。これは危険なことである。十戒のみことば「主の名をみだりに口にしてはならない」出エジプト記20：7。健全な教会は、ある人だけが祈るのではなく、かしらである主にそれぞれが祈りつつ、それぞれの意見を出し合い話し合い、ある時は自分の意見が取り入れられ、ある時は他の人の意見が取り入れられ、ある時は別の案にまとまる。かしらなる主は、その真実な話し合いに臨まれ、その行程、プロセスに働かれる。マタ18：20。使徒6：1～6、この世でも国の指導、政治、家庭、職場、会社、学校、スポーツの組織、テレビ局、新聞社、他全ての組織で、人の「支配、独裁、分断、差別」ではなく、「対話」が重んじられるなら、祝福されるだろう。

※AI や SNS に「支配される」時代になって来た。偏った情報操作が行われて来ている。祈りたい。私たちが、偏り、切り取られた情報に惑わされないように。公正な政治、選挙が行われるように。

2. 「教会の組織、決定機関はいらない。そういうものは霊的ではない。もっと自由な教会を目指す。人の意見には従わない。私は直接主に聞いて聖霊の導きに自由に従う」との最もらしく聞こえる言葉には気をつけたい。実はこのような人こそ、かえって自分が教会のかしら、支配者となり教会を縛り、教会の自由を奪ってしまう。主は健全な組織・決定機関・互いの助言を用いられる。「おのれを閉ざす者は自分の欲望のままに求め、すべてのすぐれた知性と仲たがいする」箴18：1「ふたりか三人が話し、ほかの者はそれを吟味しなさい。…神は混乱の神ではなく、平和の神だからです…すべてのことを適切に、秩序をもって行いなさい」I コリ14：29、40。

祈り：教会のかしら＝恵みとまことに満ちた支配者はキリストご自身のみです。真のかしらであるキリストの支配（神の国）が教会と世に拡大しますように！